

31日 水曜

マルコ

10:46 さて、一行はエリコに着いた。そしてイエスが、弟子たちや多くの群衆と一緒にエリコを出て行かれると、ティマイの子のバルティマイという目の見えない物乞いが、道端に座っていた。

10:47 彼は、ナザレの子のイエスがおられると聞いて、「ダビデの子のイエス様、私をあわれんでください」と叫び始めた。

10:48 多くの人たちが彼を黙らせようとたしなめたが、「ダビデの子よ、私をあわれんでください」と、ますます叫んだ。

10:49 イエスは立ち止まって、「あの人を呼んで来なさい」と言われた。そこで、彼らはその目の見えない人を呼んで、「心配しないでよい。さあ、立ちなさい。あなたを呼んでおられる」と言った。

10:50 その人は上着を脱ぎ捨て、躍り上がってイエスのところに来た。

10:51 イエスは彼に言われた。「わたしに何をしてほしいのですか。」すると、その目の見えない人は言った。「先生、目が見えるようになしてください。」

10:52 そこでイエスは言われた。「さあ、行きなさい。あなたの信仰があなたを救いました。」すると、すぐに彼は見えるようになり、道を進むイエスについて行った。

バルティマイは人々からたしなめられなくても、ひるむことなくイエス様を求めました。彼は必死だったのです。主に求めて祈るときにはこれくらい熱心さが必要です。また「見えるようになることです」と本質を単純に求めています。

私たちは主に求めるとき、ときには苦しい思いから、周りのせいになったり、自己卑下したり、多くの



否定的な考えが浮かぶものですが、このバルティマイのように、ただ主の全能に期待して求めるべきでしょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は赦おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

